

岐阜県感染症発生動向調査（2018年第14週～第17週分、4月分）コメント

感染症全般（性感染症を除く）

平成30年5月16日

月番：澤田 明

<全数把握対象疾患>

- ・結核は、発症患者および潜在性結核感染症のいずれも前年同期までの累計と比較し報告数が減少しているが、毎週コンスタントに報告例がある。
- ・腸管出血性大腸菌感染症の集団発症事例はない。
- ・四類、五類感染症については、今のところ特別多いと思われる感染症はない。
- ・本年より全数把握対象疾患となった百日咳は、毎週報告(5例)されている。
- ・麻疹患者の報告例はない。

<定点把握対象疾患>

- ・インフルエンザは、収束の傾向（17週）。
- ・感染性胃腸炎は、例年コンスタントに報告されている（本年は過去2年より多い）。
- ・突発性発しんが増加傾向（全国でも；15週から）
- ・流行性耳下腺炎は、本年にはいり減少。
- ・ロタウイルスによる胃腸炎が全国に比較し多い（西濃地区）。ただし17週にはいり収束？

- ・結核は、毎週コンスタントに報告があり、引き続き県民および医療者への注意喚起・啓発が必要である。
- ・突発性発しんが増加傾向か？ 県民への注意喚起が必要である。
- ・ロタウイルス感染症は、17週にはいり西濃地区で収束傾向にあるが、引き続き県民への注意喚起が必要である。

性感染症

平成 30 年 5 月 16 日

月番：石山 俊次

<全数把握対象疾患>

- ・後天性免疫不全症候群は無症候性キャリア 1 例、AIDS 2 例、計 3 例の報告があった。本年累計は 8 例となり、前年同期累計に比べて 6 例多くなっている（対前年比 400.0）
- ・梅毒は期間中男性 4 例の報告があり、年齢別では 20 代 3 例、40 代 1 例であった。本年累計では 20 例で、男性 11 例、女性 9 例（男女比 1.2）と、昨年累計の男女比（1.9）に比べてこれまでのところ女性の発生比率が多くなっている。全国集計でも近年女性の割合が増加しており、男性に比べ年齢分布が狭く、20 代前半の若年層の増加が多いと報告されている。

<定点把握対象疾患>

- ・性器クラミジア感染症：最近 2 年間の同期累計とほぼ同様の報告数である。全国集計では 5～10 月の春から秋にかけて多い傾向がみられており、今後の報告数に注意が必要である。
- ・性器ヘルペス：昨年同期累計に比して報告数はやや減少。
全国集計では近年微増傾向あり、男性と比べて女性では年齢が若い。
- ・尖圭コンジローマ：昨年同期累計に比して男性の報告数が減少。
全国集計で男女共に 15～19 歳では 2013 年以降微減が続いている。
ヒトパピローマウイルスワクチン接種導入による影響が今後表れてくる可能性あり、特に若年者での動向に注意が必要である。
- ・淋菌感染症：男女とも最近 2 年間の同期累計とほぼ同様の報告数である。
年齢分布は 20 代と 30 代
全国集計では男女共に 20 代（女性は特に 20～24 歳）が最も多い。